

D：防災・避難

(1) 過去の主な災害と大規模地震の被害想定

○過去の主な災害

- ・1923年 関東大震災：死傷者53名、建物の全半壊355戸
- ・2011年 東日本大震災：死傷者13名、建物の全半壊なし
- ・1966年 台風4号：床上床下浸水1912棟、崖崩れ35箇所
- ・2008年 集中豪雨：床上床下浸水77棟、崖崩れ22箇所

○大規模地震の被害想定（冬18時）

想定される地震	死者(人)	負傷者(人)	建物全半壊(棟)	建物焼失(棟)	避難人口(人)	避難生活者(人)
多摩直下型	229	3,200	16,452	3,443	92,758	60,293

出典：町田市地域防災計画

(2) 上位・関連計画での方針等

○都市計画マスタープラン

- ・被災時の活動の場となるオープンスペースの確保
- ・ヘリコプター臨時離着陸場の維持・確保
- ・避難場所の整備（災害時に様々な活動ができる公園づくり）

○地域防災計画の防災ビジョン

- ・迅速な消防・救助・救援活動の実施
- ・避難施設の開設と避難者の受け入れ

(3) 防災から見た野津田公園の特性と懇談会での意見

- ・約40haの広大な空間と、小丘・樹林地に囲まれた環境を持つ。
- ・東京都の第一次及び第三次緊急輸送道路に近接している。
- ・町田市の避難施設に指定されている。
- ・災害時の多目的な活用が可能な空地として挙げられている。
- ・野津田公園の広域的な避難エリアの範囲はどのようなものか。

(4) 整備目標（案）

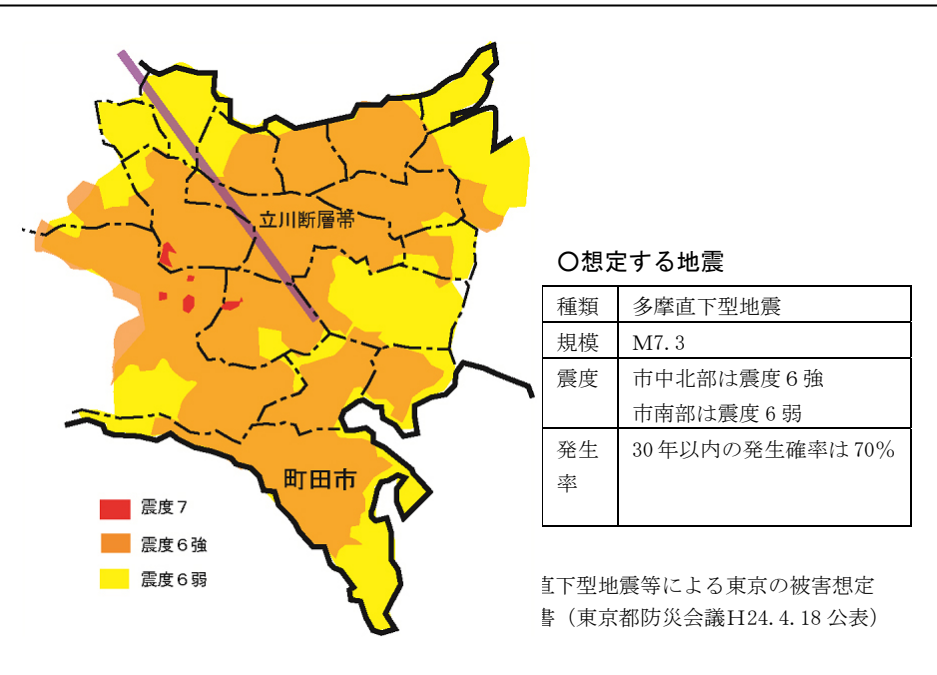
大規模災害発生時の住民避難や、救援活動の拠点機能を備えた公園づくりを目指す。

(5) 整備方針（案）

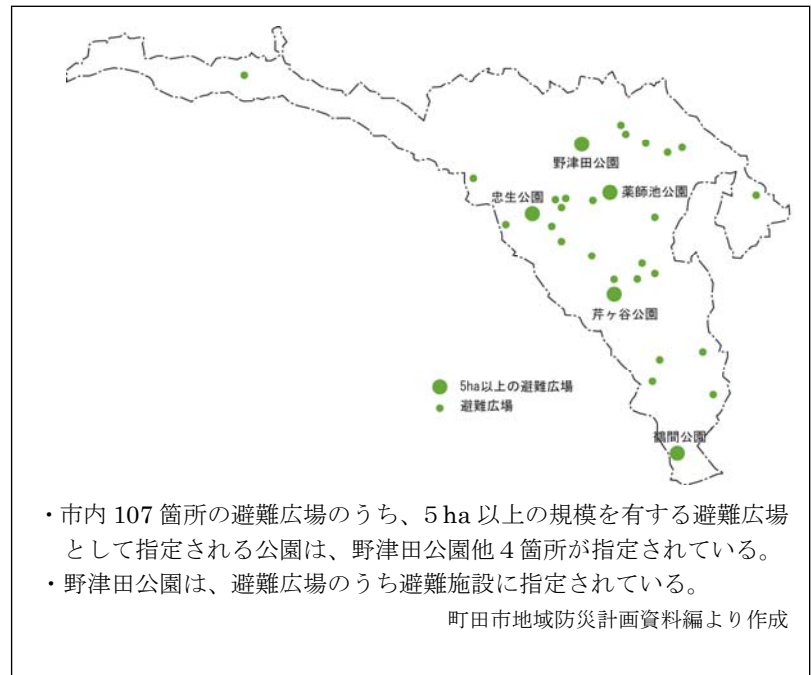
- ① 災害時における避難者の受け入れ地を確保する。
- ② 災害時の救援部隊の活動スペースを確保する。
- ③ 一時的避難生活やヘリの緊急離着陸場などにも活用できるスペースを確保する。
- ④ 周辺道路と公園を結ぶ、安全性の高い避難路を整備する。
- ⑤ 災害時のスムーズな人や物資の移動を考慮した動線を計画する。
- ⑥ 公園外周部の既存樹林を、緩衝機能を有する樹林として保全する。

■参考資料

資料-1 大規模地震の概要と震度分布



資料-2 町田市の施設・避難広場指定地（1ha以上）



資料-3 町田市の災害時活用可能な空地一覧（有効面積1ha以上）

施設名	有効面積(m ²)	救出救助の活動拠点	ヘリ緊急離着陸場	物資の集積輸送拠点	ライフライン復旧拠点	がれき置き場	応急仮設住宅建設用地
町田中央公園	12,000	○	○	○			
市民病院	10,000	○					
町田市市民球場	20,800		○				○
木曾山崎公園	15,000						○
西田スポーツ広場	15,000						○
鶴間第二スポーツ広場	12,000					○	
成瀬センター	15,000				○	○	
成瀬鞍掛スポーツ広場	14,000						○
総合体育館	19,000			○			
成瀬クリーンセンター	15,000				○	○	
野津田公園	41,000	●	●	●	●	●	●
金井スポーツ広場	15,000					○	○
鶴川中央公園	15,200					○	○
鶴見川クリーンセンター	35,000	○	○		○	○	
三輪緑山スポーツ広場	15,000						○

出典：町田市地域防災計画

F：マネジメント（市民連携・地域連携・企業連携）

(1) 町田市緑の基本計画 2020 の基本理念と野津田公園エリアの位置づけ

【基本理念】

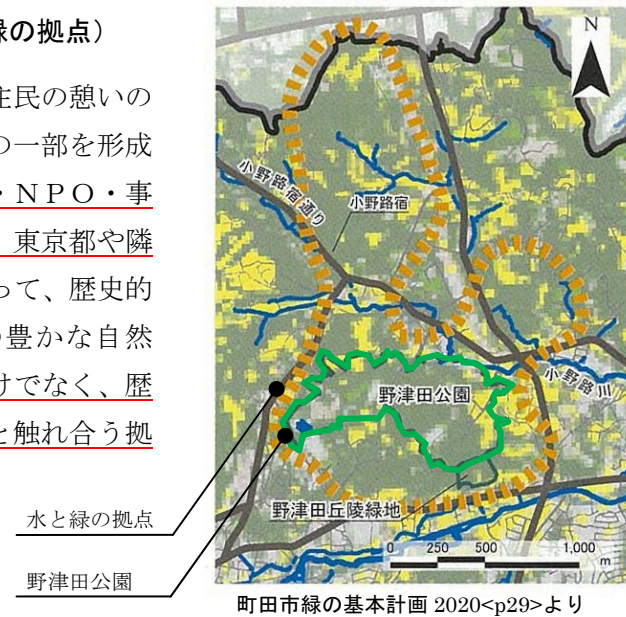
町田の環境文化を育む多摩丘陵・里山回廊の保全・再生・活用

町田の『里山』に息づく環境文化と今日まで継承されてきた緑の『量と質』を守り育てるとともに、安心安全な地域の形成、賑わいと交流の創出、環境との共生から地球環境の保全まで、様々なまちづくりに活かして行きます。

【野津田公園エリアの位置づけ】

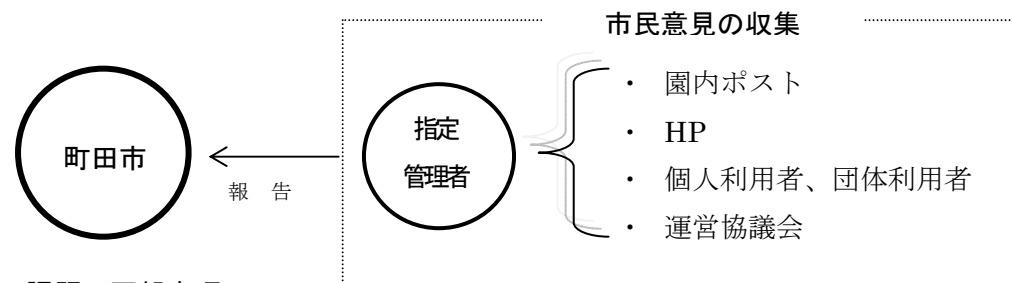
野津田・小野路（水と緑の拠点）

この地域は、首都圏住民の憩いの場とする「広域拠点」の一部を形成する地域であり、市民・NPO・事業者・大学等との協働、東京都や隣接自治体との連携によって、歴史的資産や田園風景などの豊かな自然環境が保全され、緑だけでなく、歴史・文化、さらには農と触れ合う拠点を目指します。



(2) 管理運営の現状→指定管理者制度

・管理運営に関する市民意見の反映



課題・要望事項

- ・園内の案内板やガイドマップの充実
- ・幅広い利用者層がスポーツに取り組める環境づくり
- ・野津田公園の自然を学ぶ体験プログラムの充実
- ・園内の里山環境や湿性地特有の野草等の再生
- ・園内の樹林や草地の管理に関する連携体制づくり
- ・陸上競技場での大規模イベント開催時の事業運営や施設管理体制の強化
- ・サッカー公式戦開催時の試合観戦者と一般利用者との駐車場利用区分

(3) 市民連携・地域連携・企業連携の主な事例

公園・緑地等における市民や地域との連携の取組例や、公園の地域への貢献の例をいくつか紹介します。

<p>市民連携【自然体験プログラム（武蔵野市 都立野山北・六道山公園）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO が中心となり、「自然のために行動できる人を育てる」を目標に掲げた取組である。 ・自然の体験を重視し、コミュニティガーデンづくり、雑木林の管理計画手法などの各種プログラムを提供している。 ・少人数の自然クラフトづくりから 500 人規模の田植えイベントまで四季折々のイベントを開催し、人々の出会いと交流の場としている。 	<p>地域連携【公園に子育て施設（新潟県長岡市 千秋が原南公園）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬期の子どもの遊び場を確保するため、信濃川に隣接する地域に千秋が原南公園と全天候型屋根付き施設「子育ての駅千秋」を整備した。 ・子育てについての知識を深めるため、図書館司書、歯科衛生士、言語聴覚士など多彩な講師による「子育て講座」を開催している。
<p>市民連携【生物多様性の取組（駿河台大学）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生、NPO、地元事業者が協働して、大学のキャンパス内にヘイケボタルの生息地を創出する取組である。 ・ホテルの育成を通じて、地域生態系の創出や良好な環境づくりなど、地域社会との連携を目指している。 	<p>地域連携【健康増進の取組（広島県坂町）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内のいくつかの公園とネットワーク化を図り、大学や地元商工会との連携によるウォーキングイベントの運営を行っている。 ・自然体験と心のリフレッシュができるタフなコース 10km、ベビーカーでも楽しめる平坦コース 2km 等がある。
<p>市民連携【園芸福祉療法に関する取組（大阪府 住吉公園）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園における植栽管理や園芸作業への参加による「園芸療法」プログラムを提供している。 ・園芸福祉療法に関わる担い手の育成（現在約 4000 名が活躍している）に寄与している。 	<p>企業連携【川崎フロンターレのまちづくり活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市内の 112 の小学校の体育の授業にセカンドティーチャーを派遣し、延べ約 2 万人の子どもたちに指導を行っている。 ・シニア層に対しては介護予防という主旨で、フットサル場を活用してさまざまな教室を開講している。
<p>市民連携【環境学習や管理運営の取組（町田市）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かしの木山自然公園では豊かな自然環境を保全し、身近に自然と親しめる自然教育園を目指して市とボランティアが、観察会など、環境学習や管理運営を行っている。 	<p>企業連携【兵庫県三木総合防災公園 屋内テニスコート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋内テニスコートにネーミングライツを導入し施設の維持管理費にしている。 ・ネーミングライツ料の一部をテニス振興活動の助成費として確保している。 ・企業にとってはイメージアップとなっている。

(4) マネジメントの基本目標（案）

「質の高いサービスで、市民の幸せに貢献する公園づくり」を実現します。

マネジメントの方針

1. 官民協働の管理運営の方法について継続的に検討します。

- ①市民やNPOはどのように関わるか？
- ②企業はどのように関わるか？
- ③専門家との関係は？
- ④指定管理者に望むことは？

2. 公園の魅力向上と利用者に満足度を与える、魅力ある利用プログラムを提供します。

- ①自然観察や緑化推進のためどのようなプログラムを求めるか？
- ②スポーツ振興や健康増進にどのようなプログラムを求めるか？
- ③特にゼルビアには何を期待するか？
- ④地域の活動や取り組みに対してどのように支援できるか？